

令和5年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立東蒲中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・英語を「聞く」ことに慣れるため、授業内では文字を見ずに英語を聞いたり、教員が積極的に授業で英語を使うことで定期的に「英語を聞く」機会を設けてきた結果、聞く力が伸びてきている。
- ・「書くこと」では、ノート作りや英作文の機会を積極的に設けてきた。
また、まとまりのある英文を書く機会を設けた。継続することで少しずつ書くことに慣れてきた。

(2) 課題

- ・英語を「聞いて理解する」から、「必要な情報を精査する」ことができるようにする。
- ・対話文や長文読解などは、英検や入試を見据え、ポイントを絞って読み取れるように指導する。
- ・英作文は、個人差があるため、無解答を少しでも減らせるよう、英作文のテンプレートを用意して教えていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	全体的に目標値を上回ることができた。特に読むこと書くことは7.0と大きく上回った。	/	/
第2学年	全体的に目標値を上回ることができた。場面に応じて書く英作文に課題が残る結果となった。	概ね目標値を上回っているが、書くことに課題が残った。(第1学年時)	/
第3学年	区の平均正答率は下回っているが、目標値には近い。目標値を大きく下回ってしまった領域は「書くこと」であった。	概ね目標値を上回っているが、場面に応じて書く英作文や3文英作文など、表現する力が下回った。(第2学年時)	全体的に区の平均は下回っているが、知識理解は全国を上回った。特に聞く力は全国平均を大きく上回った。一方で書く力は全国より少し下回った。(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
アルファベットの書き取り、単語の書き取りは大幅に目標値を上回っている。しかしアルファベットの読み取りや単語の理解はあまり大きく上回ることがなかった。	英作文は基準値を上回ることができたが、大きく差をひらくことはなかった。また小学校の思い出に残っている行事を書き写す問題では、1.3と下回った。	英作文では自分自身を紹介する問題は上回っているが、なりたい職業を書く問題では0.2の上回りだった。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に大幅に目標値を上回っている。一般動詞の疑問文に課題が残る結果となった。	英文の要点の読み取りや、場面に応じて書く英作文に課題が残る。	目標値を少し上回る程度であった。英作文に課題が残る。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
リスニング問題は目標値と同等かそれを上回る結果となった。 単語の並べかえによる英作文問題は目標値同等かそれ以下であった。	リスニングや、長文における要点を捉える問題については目標値とほぼ同等であった。 指示に従って各英作文問題の正答率は、目標値に近かった。	自分の意見や考えを述べたり、提示された絵の説明をする英作文問題が目標値を下回っていた。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業内のワークシート、観点別テストを通して読み書きの力をつける。また基本文のまとめを定期的に行い、既習文法事項の定着を図る。	ALT との会話、ペアワーク、授業内ワークシートを通して、思考力・判断力・表現力を養う。またタブレットを活用した表現テストを定期的に行い、即興のやりとりの力をつける。	授業内のワークシートの取り組みから粘り強く取り組む姿勢を養う。また「何か書いてみる」という態度を養い、書くことに慣れていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様々な英文に触れることで、読み書きの力をつける。また基本文のまとめを定期的に行い、既習文法事項の定着を図る。	ALT を有効的に活用し、自ら考え自ら表現しようとする態度を養う。また、3文の英作文を繰り返し書かせ、英語を書く力を強化する。	ペアワークやグループワーク、また発表等を通し、自分の意見や考えをアウトプットする力を養う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文法の基礎定着を図るために教科書の例文を覚える活動を行う。	長文読解に慣れるため、帯活動として読解演習を行う。長文の読み方と解き方のポイントを指導し、得点力アップを狙う。	指定された英文を書いたり、自分の考えを述べるといった「書く」活動の機会をさらに増やし、英語を書くことに慣れていく。